



まっすぐ。レポート 2018年秋冬号



◎発行日:2018年11月 ◎発行者:岩田ひろたか事務所 ◎住所:〒690-0884 松江市南田町105 TEL:0852-24-2323

大家族しまねを一緒につくりたい! ~県政課題と向き合った3年半~

皆さんこんにちは。島根県議会議員の岩田ひろたかです。2期目県の議会活動も残すところ半年となりました。初当選以来一貫して掲げる「すべての基本は人づくり」の視点を軸に、地方創生のカギを握る青写真「島根県総合戦略」の成果が求められています。

地方の取り組みも活発になる中で、この先の島根県がどうあるべきか...その考え方として「大家族しまね」を創りたいと考えています。家族のようにお互いを支え合う地域社会を県民の皆さんと一緒に創り上げていくことができないものか。1人ひとりの生活に寄り添った県政運営となっているのか?誰も取り残されることのない地域社会の集まりが島根県だと位置づけて議会活動を展開しています。

今年度は、私にとって「県議会議員2期目の集大成の年」。これからの島根がどうあるべきかを一緒に考えていきましょう!!

まっすぐ。災害に見舞われた2018年上半期

今年4月に大田市を震源とする地震が発生しました。また7月の西日本豪雨では江津市を中心に、本県でも大きな被害を受けました。被害を受けた皆様には改めてお見舞いを申し上げます。私も被災地域にお邪魔しましたが、防災体制の確立と災害に強い県土づくりの必要性、加えて住民の意識を高める防災教育の重要性を改めて感じています。

島根県西部地震被害調査

出雲市では、山が高さ120mにわたって崩落し、斜面下の県道が土砂に埋め尽くされました。



大田市の養鶏場では地震によつて地盤が隆起し、被害額は2億円を超えました。



▲農水商工委員会による現地調査

大田市の社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを運営し、各地から集まったボランティアの作業分担などスムーズな復興活動に貢献していただきました。

平成30年西日本豪雨被災地調査

7月6日からの豪雨で江の川流域で洪水が発生しました。流域全体での堤防の整備率が低く、特に未整備の地域で河川の氾濫が起きました。また堤防整備箇所でも支流から本流に水が流れないバックウォーター現象により支流流域での洪水も発生しました。



江津市桜江町川越地区では発災当時、水が一気に増水し、気が付いた時には逃げ場を失っていたといえます。



まっすぐ。地域に飛び出す議員として

県議会に議席を頂いて8年目、政治家が皆さんにとって身近な存在であってほしいと日々活動しています。僕にできるのは、「地域の皆さんと一緒に汗をかくこと」です。県民と一緒に「創る」そんな姿勢で活動の幅を広げていきます。政治家としては、まだまだ「若手」です。現場に出ること、現場で汗を流すこと、自ら動くことで島根の新しい時代を作っていくものです。



▲水害復旧作業に各地からボランティアが駆けつけていました



▲江津市桜江町川越地区での被害状況調査



▲流域では農地も甚大な被害を受けました



▲西ノ島町の多目的図書館「いかにあ」の視察



▲今年も琴行列に参加しました



今年度の定例会から

6月議会

6月議会では次のような項目について一般質問を行いました。その一部をご紹介します。

1、児童虐待について

問 児童相談所では、施設への入所措置が必要と判断されるなど、より深刻な児童相談のケースを県が担当し、在宅支援など深刻度の軽いケースは市町村が担っています。一昨年の法改正で、市町村には在宅支援を行う体制整備のために、子育て世帯包括支援センターや子ども家庭総合支援拠点の設置が努力義務となっています。そこで市町村の現在の整備状況について尋ねました。

答 子育て世帯包括支援センターにつきましては、平成29年度末までに7市町村で整備され、今年度は既に2市町、さらに3市町で整備が進む予定です。また、子ども家庭総合支援拠点については、平成29年度末までに1カ所が整備され、今年度はさらに複数の市町村で整備が進む予定です。今後とも直接市町村を訪問し、設置に向けた助言を行うなど整備が進むよう支援を行います。

2、コミュニティナースと小さな拠点づくりについて

問 コミュニティナースとは、病院や福祉施設、訪問看護に従事する看護師とは異なり、地域おこし協力隊やNPO活動のメンバーとして地域に入り、地域の中で住民とパートナーシップを形成しながら、その専門性や知識を生かして活動する医療人材のこと

ことを指します。地域の支え合いを高める取り組みとして、このコミュニティナースをぜひ活用できると感じています。

答 コミュニティナースのように看護師等の医学的な知識を持った人材が地域に入り、地域の方と一緒に生活していくことで、健康や疾病予防についての意識が高まり、生活習慣の改善など住民の行動変容につながり、地区内外の医療、介護の専門職が地域の活動に参画するなど、コミュニティの活性化が図られたとの報告があります。このような動きが周辺のコミュニティにも波及していくことなども期待できると考えています。



▲雲南市鍋山などで実践されているコミュニティナースを核とした地域づくりの取り組みの報告会の様子

9月議会

9月議会では『防災』をテーマに防災教育の充実について防災ゲームの活用、また松江市に多数ある、ため池の防災について質問に立ちました。

問 防災教育は都道府県によつて取り組みに非常に大きな違い、温度差があるなど感じています。学校などで真剣に防災教育に取り組むことは大変重

要なことですが、その一方で、防災に関するゲームなどを通して防災について考える機会を提供することは、結果的に子どもを始める多くの住民の命を守ることに繋がると考えております。

答 小中学校では、例えば地域の防災マップを児童生徒みずからが現地に行つて作成、活用すること。地域の方々のお手伝いをいただきながら避難所の設置を体験すること。気象台の専門家を講師とする、大雨、雷の危険などを考える教育プログラムを活用することなどの活動を行った後、自分たちができることを考えたり、話し合ったりする授業を行っている例があります。さらに、地域の世代を超えた取り組みとして、公民館が総合防災キャンプを実施し、児童生徒と地域住民が避難、非常食の試食、避難所での宿泊などの体験を行った例もあります。このような取り組みを通して、防災についての知識、理解だけでなく、適切な意思決定や行動選択ができ、将来的には地域の防災活動や災害時の支援活動において適切な役割を担うことができる子どもたちを育成していきたいと考えています。



▲防災カードゲーム「シャッフル」。ほかにも数々の防災ゲームが他県では活用されています。

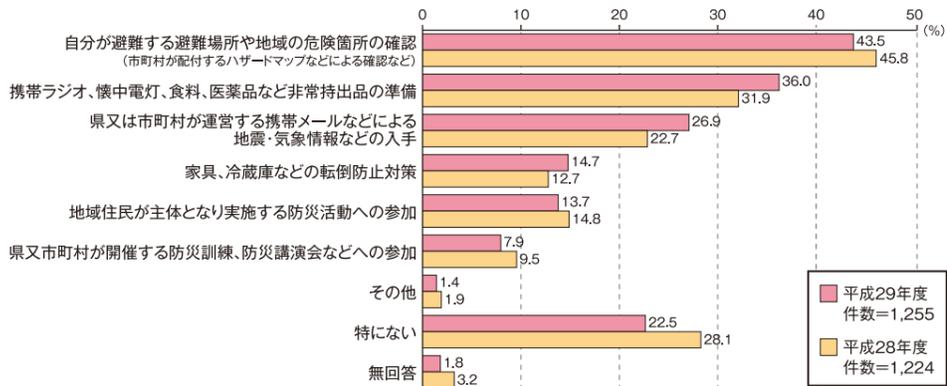
今年度の活動から

命は自ら守ってほしい。防災意識の向上を!

今年の県政世論調査によりますと、自分の避難場所や危険箇所をハザードマップなどで確認している人の割合は43.5%、地域住民が主体となって実施する防災訓練への参加は13.7%、特に何もしていないという人が22.5%いるのが現実です。県民のなお一層の防災意識向上というものが求められています。

県政世論調査より

問 あなたは、日ごろから地震や水害・土砂災害などに備え、家庭でどのような防災対策に取り組んでいますか?



骨髄バンクドナー登録しました

2017年7月末現在、ドナーの登録者数は全国で47万5,606人で、鳥根県でもおよそ4,200人のドナー登録があります。このドナー登録は、18歳から54歳の方しかできず、全国では近年、毎年2万人が登録取り消しとなっており、新規登録をきちんと増やしていかないと危惧されています。この対策について尋ねました。骨髄移植のためには事前の通院や、移植の際の入院が必要で、時間的制約から登録していても実際移植にまで至るケースが少ないという問題があります。そこで、ドナーへの助成制度の創設や企業が休暇取得をさせやすいよう対策を求めています。



▲骨髄バンクに登録しました。2mlの採血で登録可能です

AIが地域を救うカギになるか

鳥根県情報産業協会の講演会でAI：人工知能の利用について学んできました。いろいろな問い合わせをチャット形式で応対するシステムなど、言語分野での活用は比較的低コストで導入でき、AIのエンジニアを必要とするわけでもないとのこと。

行政をはじめ、いろいろな分野で活用できそうだと改めて可能性を感じました。



講師の西原中也氏は大田市のご出身で、ご実家はお寺とのこと。楽しくAIの可能性についてお話しくださり、行政・民間問わず積極的に関わっていくべき分野だと再認識しました。

お知らせ

◎どこでもタウンミーティングははじめます!

現場の声をもっと聞きたい。そんな思いから、「どこでもタウンミーティング」を始めます。あなたの地区に岩田が伺います! 3人以上集まれば、開催しようと思います。岩田ひろたかと鳥根の未来について語りませんか? 県議に聞いてみたいこと、あなたの思い、ご意見をお聞かせください。お友達同士で、地域の仲間で気軽にお声がけください。

■詳しくは、お電話かメールで岩田ひろたか事務所までお問い合わせください。



岩田ひろたか事務所
〒690-0884 松江市南田町105 TEL.0852-24-2323
E-mail : office@iwatahirotaka.jp

